もがみがわ 緊急治水対策プロジェクト

地域を“みず”から守る。
“流域治水”

記者発表資料

令和８年９月２９日
新庄河川事務所

「最上川緊急治水対策プロジェクト」“初”
無人の水陸両用掘削機械を活用し河道掘削を推進します！

～ 全国に数台しかない水陸両用の遠隔操作ブルドーザ等を活用し、見えない水中部をICT施工により掘削 ～

国土交通省新庄河川事務所では、令和2年7月洪水及び令和6年7年洪水を踏まえ、「最上川緊急治水対策プロジェクト」による両洪水からの再度災害防止のため、最上川の河道掘削工事等を推進しています。

これまで、高水敷等の陸地部分の掘削を行ってきましたが、今後、水中部分の掘削作業を実施するため、遠隔操作によるブルドーザ等を活用し、見えない水中部の掘削を ICT 施工により推進していきます。

つきましては、本格的な作業開始に向けて、遠隔操作による水中掘削機械の現地作業見学会を開催します。

○ 開催日時 ： 令和8年10月6日（火） 10:00～

○ 見学場所 ： 山形県最上郡戸沢村皿島地内

○ 内　　容 ： 遠隔操作による建設機械（水陸両用ブルドーザ等）を活用した、掘削作業見学会を開催
※小雨決行、降雨の影響等による河川水位の状況によっては、延期する場合があります。

○ 集合場所／集合時間 ： 山形県最上郡戸沢村古口地内 （9:30集合）
（※別紙 集合場所位置図参照）

○ 見学会申込み方法 ： 掘削作業見学会（取材）を希望される報道機関に置かれましては、 令和8年10月2日（金）16:00までに、別紙「見学会（取材）申込書」により「メール」又は「FAX」にて申し込み願います。

＜発表記者会＞山形県政記者クラブ、新庄新聞放送記者会、山形建設業界専門紙、東北建設専門記者会

問合せ先

国土交通省　東北地方整備局　新庄河川事務所
住所：山形県新庄市小田島町 5-55　電話：0233-22-0251（代表）

	副　所　長	花田　一二
（事業計画関係）	工務第一課長	大場　文裕
（工事関係）	最上南部流域治水出張所長	菊地　純
	鮭川出張所長	葛西　信智

流域治水

別紙

○報道機関の方へ

・掘削作業見学会（取材）を希望される方は、下記参加申込書に記入の上、令和８年１０月２日（金）１６時までに「メール」又は「ＦＡＸ」にてご連絡ください。

※令和８年１０月６日（火）当日の天候等により延期となる場合は、予備日として、令和８年１０月９日（金）ＡＭ１０：００～を想定しています。

なお、延期となる場合は、登録者の皆様に事前連絡いたします。

＜見学会（取材）申込書＞

送　　信　　先　：　国土交通省　新庄河川事務所　工務第一課　あて
メールアドレス　：　thr-762koumu1@ki.mlit.go.jp
Ｆ　　Ａ　　Ｘ　：　０２３３－２２－０６２３

ふりがな　（必須）	
お名前　　（必須）	
ご所属（会社名）（必須）	
ご連絡先（TEL/FAX/メール）（必須）	TEL： FAX： ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：
その他連絡事項欄	

※送り状は不要です。本紙のみをそのままメールまたはFAXしてください。
なお、お手数ではございますが、受信確認のため下記までご連絡ください。

【受信確認先】
国土交通省　新庄河川事務所　工務第一課
ＴＥＬ：０２３３－２２－０２５４（工務第一課 直通）
※令和８年１０月２日（金）１７時までに連絡をお願いいたします。

掘削作業見学会参加者集合場所位置図

◇集合場所：山形県最上郡戸沢村古口地内
（※古口大橋の下の駐車スペース）
◇集合日時：令和8年10月6日（火）AM9：30
（見学会は全体で90分程度を想定）



【拡大】



※古口大橋の橋の駐車スペースが
集合場所になります。

国土交通省 東北地方整備局 新庄河川事務所

遠隔操縦式水陸両用ブルドーザ

水陸両用ブルドーザ（通称 水中ブル）ってどんな機械？

◆水陸両用ブルドーザはこうして生まれました



今から44年前、1968年建設省（現国土交通省）指導のもと、㈱小松製作所によって、世界初の水陸両用ブルドーザD125-18B(作業水深3m型)が開発されました。（右写真）

現場デビューとなった富山県常願寺川河口での水中掘削作業は、『建設機械の遠隔操作』という点で、無人化施工最初の工事とも言われております。

その後、数々の改良・改造を繰り返し、D155W-1(作業水深7m型)として現在に至っております。

これまで、水陸両用ブルドーザは、36台(うち海外１４台)製造され、現在5台の水陸両用ブルドーザが全国各地で活躍しております。

◆水陸両用ブルドーザとはこんな機械です

水陸両用ブルドーザは、水中掘削用機械として「水陸両用性」と「ラジコン操作機能」を組み合わせ開発・実用化されたものです。施工実績は、河川・海岸・ダム・漁港及び港湾の水中土木作業に使用されています。

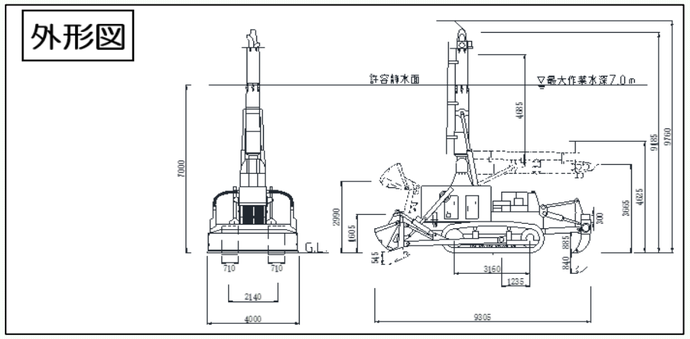
この水陸両用ブルドーザは陸上で使用されているブルドーザを単純に水密化したものではなく、水中作業に適応するために各種の安全センサーと警告装置、水圧に応じた機械の内圧調整など様々な工夫がなされています。

■重量：陸上 43.5t／水中27.9t　■バケット容量：3.36m3（4.0m3山積み）

■操縦距離：30～100m　■各種センサー搭載（水混入・排水、ｵｰﾊﾞｰﾋｰﾄ、傾斜、油圧低下他）



外形図



◆河道掘削で濁りがでますか？



河川内の土砂を掘削する場合、どのような方法で掘削しても川の流れを止めずに濁りを発生させない施工方法はありません。

私達はこれまでの施工経験を活かし、濁りを極力拡散させない方法で施工し、かつ短期間で終えるよう河道掘削工事を行ってまいります。

◆河道掘削における水陸両用ブルドーザ工法の特徴

- 作業船および陸上機械が入れない浅瀬域で作業可能
- 無線遠隔操縦により、運転員の安全が確保可能
- 河川内仮設が不用なため、河積阻害せず経済的かつ安全
- 土工機が大型なため、短期間で施工可能で経済的
- 排土板で面掘削するので、仕上り精度が高い（勾配可能）
- 排土板のエプロン装置により、水中の掘削土を逃さない
- 作業船に比べ、余掘が少なくすみ経済的（薄層浚渫可能）
- アンカーを使用しないため、船舶の航行を阻害しない
- ダクト（吸排気塔）を倒すことにより、橋梁下作業が可能



◆水陸両用ブルドーザはこんなことができます



リッパによる岩盤掘削



橋梁下部ダクトを倒しての掘削作業



ICT施工対応の水陸両用ブルドーザ工法

施工会社：(株)柿崎工務所

協力：青木あすなろ建設(株)東北支店